

Discover OSAKI

おらほのニュース
発信します！

30日	21日	18日	17日	15日	14日	1日
●令和2年度小型消防ポンプ付軽積載車交付式	●古川北部地区4小学校閉校式(宮沢・長岡・富永・清滝小学校)	●大崎市産業振興対策審議会	●総務省消防庁消防団協力事業所表示証交付書伝達式・大崎市消防団協力事業所認定証交付式	●第1回全国農泊ネットワーク宮城大崎大会実行委員会設立総会	●おおさき高校生タウンミーティング	●令和3年春の交通安全県民総ぐるみ運動交通安全推進会議

3月の主な出来事

二階堂トクヨ先生を称え銘板設置

3月14日、三本木地域出身で、「日本女子体育の母」と称される、二階堂トクヨ先生の住居跡(三本木館山公園東側)に銘板が設置されました。

「二階堂トクヨ先生を顕彰する会(佐藤武一郎会長)」の主催で、地域の関係団体や住民が見守る中、除幕式が開かれ、皆さんで祝いました。

今年は、二階堂体操塾(現日本女子体育大学)の創設から100周年を迎える記念の年となり、日本の女子体育教育の先駆者、二階堂先生の偉業を称え、意思を受け継いでいくことを確認しました。



▲設置した銘板を囲み記念撮影

厚生労働大臣表彰を受賞、朗読ボランティア「さわやかハーモニー」

令和2年11月、朗読ボランティアの「さわやかハーモニー」が、厚生労働大臣表彰を受賞しました。

「さわやかハーモニー」は、視覚障がいのある人に向けて、毎月、広報おおさを朗読、録音、発送する活動を行っています。平成5年に旧古川市の広報紙を音訳するボランティア団体として発足し、今年で設立28周年を迎えました。

活動のきっかけは、「さわやかハーモニー」発足に携わった当時の先輩方が、目が見えない人にとって、毎月届く広報紙は単なる紙でしかないという声を耳にしたことでした。やがて読書好きなメンバーが集まり、朗読ボランティア活動を始めました。



▲さわやかハーモニーでは一緒に活動する仲間を募集しています



▲伝えることを意識して録音に臨む、さわやかハーモニー代表の狩野さん

現在は12人で活動し、広報紙の朗読以外にも、小学校などへ訪問し、朗読会を行っています。

代表を務める狩野弘代さんは「視覚障がいのある人にも、地域の情報を届けたいという思いから、広報紙を朗読しています。小学校で行っている朗読会では、子どもたちから元気をもらい、励みになっています。」と話してくれました。また、朗読する際には、ただ読み上げるのではなく、書き言葉を話し言葉に変えるなど工夫し、聞きやすい朗読を心掛けているそうです。

活字をさわやかな声に変えて、広報おおさきをお届けするさわやかハーモニーの皆さんです。

●施工業者

建築工事	▶橋本店・村田工務所・荒谷土建特定建設工事共同企業体
電気設備工事	▶ユアテック・富士電工・大崎電業特定建設工事共同企業体
機械設備工事	▶菱機工業(株)・(株)北陵建設特定建設工事共同企業体

令和4年度中の供用開始を目指している新しい市役所本庁舎は、令和4年11月の完成に向けて工事を進めてまいります。

工事の進捗状況などは、広報おおさきや市ウェブサイトで、随時お知らせします。

期間中、周辺および来庁者の皆さんには、ご迷惑とご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

●今後のスケジュール(令和3年3月19日現在)

建築住宅課庁舎建設室 ☎23-2282

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新庁舎・東庁舎	本庁舎建設工事 令和3年3月～令和4年11月		本庁舎供用開始 令和5年3月～ 東庁舎改修工事 令和5年度中	
現 庁 舎			解体工事 令和5年4月～12月	
駐車場			整備工事 令和6年1月～6月	供用開始 7月～

まちの話題や出来事、
ニュースをお届けします！

CITY TOPICS

おおさき高校生タウンミーティングを開催しました

3月14日、「おおさき高校生タウンミーティング」を開催しました。

「おおさき高校生タウンミーティング」とは、市が抱える問題やプロジェクトについて、高校生が話し合い、問題解決に向けた事業提案を行うものです。地域活動の担い手育成が課題となる中、これからの地域を担う若者を育成する事業の一環として、実施しています。



▲市の魅力について話し合う高校生たち

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初の試みとして、オンラインで市役所と



▲最後に話し合った内容を発表

市内7つの高校を結び、54人の高校生が参加しました。

「ずっと住み続けたい！一度外に出てまた戻って来たい！」と思える大崎市とは？をテーマに、各学校のグループ内で話し合い、最後に話し合った内容を発表しました。

市の魅力的な点と課題点を話し合い、どのようにすれば定住しやすい大崎市になるか、高校生ならではの目線や、自由な発想から、さまざまな意見やまちづくりのアイデアが提案されました。

例年とは異なるリモート開催となりましたが、大崎市について語り合ったことで、市への関心も高まった様子でした。